

HA8000 シリーズ

HITACHI
Inspire the Next

Windows 用 SEL Manager 取扱説明書

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

ソフトウェア使用上の注意

お客様各位

株式会社 日立製作所

このたびは日立アドバンスサーバをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
下記の「ソフトウェアの使用条件」を必ずお読みいただきご了解いただきますようお願いいたします。

ソフトウェアの使用条件

1. ソフトウェアの使用

このソフトウェアは、特定の1台の日立アドバンスサーバシステムでのみ使用することができます。

2. 複製

お客様は、このソフトウェアの一部または全部の複製を行わないでください。ただし、下記に該当する場合に限り複製することができます。

お客様がご自身のバックアップ用、保守用として、1項に定める1台の日立アドバンスサーバシステムで使用する場合に限り複製することができます。

3. 改造・変更

お客様によるこのソフトウェアの改造・変更は行わないでください。万一、お客様によりこのソフトウェアの改造・変更が行われた場合、弊社は該当ソフトウェアについてのいかなる責任も負いません。

4. 第三者の使用

このソフトウェアを譲渡、貸出、移転その他の方法で、第三者に使用させないでください。

5. 保証の範囲

(1) 万一、媒体不良のために、ご購入時に正常に機能しない場合には、無償で交換いたします。

(2) このソフトウェアの使用により、万一お客様に損害が生じたとしても、弊社は責任を負いません。あらかじめご了承ください。

以上

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複製することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本製品を運用した結果については責任を負いません。あらかじめご了承ください。

規制・対策などについて

□ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合はお買い求め先にお問い合わせください。

□ 海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。
なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、本製品は適合していません。

登録商標・商標について

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows Server、Windows NT、Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

VMware、ESX、ESXi、vSphere は米国およびその他の国における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で記載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2012. All rights reserved.

はじめに

このたびは日立のシステム装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
このマニュアルは、Baseboard Management Controller (以下、BMC) に記録された System Event Log (以下、SEL) 情報を、Windows 上 (VMware 上のゲスト OS の場合を含む) にファイル出力する HITACHI SEL Manager (Windows サービスプログラム) (以下、SEL Manager) のインストールについて記載しています。システム装置をお取り扱いいただく前に本書の内容をよくお読みください。

マニュアルの表記

□ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	本製品の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	本製品を活用するためのアドバイスを示します。

□ オペレーティングシステム (OS) の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Standard または Windows Server 2012、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Datacenter または Windows Server 2012、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Standard または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Foundation または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard または Windows Server 2008、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise または Windows Server 2008、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter または Windows Server 2008、Windows)
- VMware vSphere® ESXi™ 5.1
(以下 VMware vSphere ESXi 5.1 または VMware vSphere ESXi、VMware)
- VMware vSphere® ESXi™ 5.0
(以下 VMware vSphere ESXi 5.0 または VMware vSphere ESXi、VMware)
- VMware vSphere® ESX® 4.1
(以下 VMware vSphere ESX 4.1 または VMware vSphere ESX、VMware)

お問い合わせ先

□ 技術情報、アップデートプログラムについて

HA8000 ホームページで、技術情報、ドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアなどのアップデートプログラムを提供しております。

ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/index.html>

[ダウンロード] タブをクリックした [ダウンロード] ページにある [ドライバ・ユーティリティ新着情報] および [ドライバ・ユーティリティの検索] をクリックしてください。

各アップデートプログラムはお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にご使用していただくためにも、定期的にホームページにアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新していただくことをお勧めいたします。

障害等の保守作業で部品を交換した場合、交換した部品の BIOS、ファームウェアは原則として最新のものが適用されます。また保守作業時、交換していない部品の BIOS、ファームウェアも最新のものへ更新する場合があります。なお、お客様による BIOS、ファームウェアアップデート作業が困難な場合は、有償でアップデート作業を代行するサービスを提供いたします。詳細はお買い求め先にお問い合わせください。

□ 操作や使いこなしについて

本製品のハードウェアについての機能や操作方法に関するお問い合わせは、HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）でご回答いたしますので、次のフリーダイヤルにおかけください。受付担当がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話でお答えするコールバック方式をとらせていただきます。

HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）

 **0120-2580-91**

受付時間

9:00～12:00/13:00～17:00（土・日・祝日、年末年始を除く）

お願い

- お問い合わせになる際に次の内容をメモし、お伝えください。お問い合わせ内容の確認をスムーズに行うため、ご協力をお願いいたします。
形名（TYPE）／製造番号（S/N）／インストール OS／サービス ID（SID）
「形名」、「製造番号」および「サービス ID」は、システム装置前面に貼り付けられている機器ラベルにてご確認ください。
- 質問内容を FAX でお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。
- HITAC カスタマ・アンサ・センタでお答えできるのは、製品のハードウェアの機能や操作方法などです。ハードウェアに関する技術支援や、OS や各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。ハードウェアや OS の技術的なお問い合わせについては有償サポートサービスにて承ります。詳細は「技術支援サービスについて」をご参照ください。
- 明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。

□ 欠品・初期不良・故障について

本製品の納入時の欠品や初期不良および修理に関するお問い合わせは日立コールセンタにご連絡ください。
日立コールセンタ



0120-921-789

受付時間

9:00～18:00（土・日・祝日、年末年始を除く）

お願い

お電話の際には、製品同梱の保証書をご用意ください
Webによるお問い合わせは次へお願いします。

https://e-biz.hitachi.co.jp/cgi-shell/qa/rep_form.pl?TXT_MACTYPE=1

□ 技術支援サービスについて

ハードウェアやソフトウェアの技術的なお問い合わせについては、技術支援サービスによる有償サポートとなります。

総合サポートサービス「日立サポート 360」

ハードウェアと Windows や Linux などの OS を一体化したサポートサービスをご提供いたします。詳細は次の URL で紹介しています。

ホームページアドレス

<http://www.hitachi.co.jp/soft/symphony/>

インストールや運用時のお問い合わせや問題解決など、システムの円滑な運用のためにサービスのご契約をお勧めします。

HA8000 問題切分支援・情報提供サービス

ハードウェアとソフトウェアの問題切り分け支援により、システム管理者の負担を軽減します。詳細は次の URL で紹介しています。

ホームページアドレス

<http://www.hitachi.co.jp/soft/HA8000/>

運用時の問題解決をスムーズに行うためにサービスのご契約をお勧めします。

なお、本サービスには OS の技術支援サービスは含まれません。OS の技術支援サービスを必要とされる場合は「日立サポート 360」のご契約をお勧めします。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するために、このシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。



警告 これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



注意 これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

通知

これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。



【表記例1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例2】分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、! は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。

- 本ソフトウェアをインストールするシステム装置のマニュアルを参照し、記載されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の損害を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。

操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

安全にお使いいただくために（続き）

製品の損害を防ぐための注意

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



本製品のインストールについて

本製品は、本製品の動作をサポートしているシステム装置でご使用ください。それ以外のシステム装置にインストールすると、システム装置の仕様の違いにより故障の原因となります。サポートの有無については、システム装置のマニュアルなどでご確認ください。

本マニュアル内の警告表示

警告

本マニュアル内にはありません。

注意

本マニュアル内にはありません。

通知

SEL Manager のインストールについて

SEL Manager をインストールしていない環境では、障害の発生を見落として重要なデータを消失したり、障害解析時に支障をきたしたりする場合があります。必ずインストールしてご使用ください。

SEL Manager のアンインストールについて

SEL Manager のアンインストールは実施しないでください。アンインストールした場合には、SEL Manager が取得した、障害解析に必要なデータが消失します。また、SEL Manager をアンインストールした場合には、他の日立製ソフトウェアが正常に動作しなくなる恐れがあります。万一、アンインストールしたことにより、他の日立製ソフトウェアが動作しなくなった場合には、これらの日立製ソフトウェアの再インストールが必要になり、お客様の設定情報や日立製ソフトウェアが取得したデータが消失する恐れがあります。

『関連ページ』 → P.15

目次

重要なお知らせ	3
規制・対策などについて	3
登録商標・商標について	3
著作権について	3
マニュアルの表記	4
お問い合わせ先	6
安全にお使いいただくために	8
製品の損害を防ぐための注意	9
本マニュアル内の警告表示	9
1 ご使用になる前に	11
SEL Manager 概要	11
2 環境設定	13
BMC の環境設定	13
3 インストール手順	15
SEL Manager のインストール手順	15
4 サービスの停止・開始	20
SEL Manager のサービス停止・開始手順	20

1

ご使用になる前に

この章では、SEL Manager を使用する前に知っておいていただきたい内容について説明します。
ご使用前にお読みください。

SEL Manager概要

SEL Manager は、BMC に記録された SEL 情報を Windows 上（VMware 上のゲスト OS の場合を含む）にファイル出力するサービスプログラムです。（他に BMC に記録された SEL 情報を取得できるソフトウェアとして JP1/ServerConductor があります。）

本マニュアルでは SEL Manager の環境設定およびインストール手順についてご説明します。

SEL Manager の適用装置ならび適用 OS は以下の通りです。

<VMware 以外>

ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> • HA8000/RS440 (AL2) • HA8000/RS220-h (HM1/JM1/KM1/LM1) • HA8000/RS220 (AM1/CM1/DM1) • HA8000/RS220-s (SM1/TM1/UM1/VM1) • HA8000/RS210-h (HM1/JM1/KM1/LM1) • HA8000/RS210 (AM1/BM1/CM1/DM1/EM1) • HA8000/RS110-h (HM1/KM1/LM1/MM1) • HA8000/RS110 (AL2/BL2/CL2/DL2/EL2/FL2/GL2) • HA8000/TS20 (AM1/BM1/CM1/DM1/EM1/FM1) • HA8000/TS10-h (HM1/JM1/KM1/LM1/MM1) • HA8000/TS10 (AL2/BL2/CL2/DL2/EL2/FL2/GL2/HL2) • HA8000/SS10 (AL2/CL2/DL2/EL2/FL2)
適用 OS	<ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2012 Standard *1 • Windows Server 2012 Datacenter *1 • Windows Server 2008 R2 Standard *1 • Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 • Windows Server 2008 R2 Datacenter *1 • Windows Server 2008 R2 Foundation *1 • Windows Server 2008 Standard *2 • Windows Server 2008 Enterprise *2 • Windows Server 2008 Datacenter *2

*1：64bit 版のみ提供されます。

*2：「OS 表記」および「対象 OS」において 32bit 版のみを対象とする場合、名称末尾に” 32bit 版” を追記します。また 64bit 版のみを対象とする場合、名称末尾に” 64bit 版” を追記します。

<VMware>

ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・ HA8000/RS440 (AL2) ・ HA8000/RS220-h (HM1/KM1/LM1) ・ HA8000/RS220 (AM1/DM1) ・ HA8000/RS220-s (TM1/UM1) ・ HA8000/RS210-h (HM1/KM1/LM1) ・ HA8000/RS210 (AM1/DM1) ・ HA8000/RS110-h (HM1/LM1) ・ HA8000/RS110 (AL2/BL2/GL2) ・ HA8000/TS20 (AM1/EM1) ・ HA8000/TS10-h (HM1/LM1) ・ HA8000/TS10 (AL2/BL2/GL2/HL2)
適用 VMware Ver *3	<ul style="list-style-type: none"> ・ VMware vSphere ESXi 5.1 ・ VMware vSphere ESXi 5.0 ・ VMware vSphere ESX 4.1
対象ゲスト OS	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Server 2012 Standard *1 ・ Windows Server 2012 Datacenter *1 ・ Windows Server 2008 R2 Standard *1 ・ Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 ・ Windows Server 2008 R2 Datacenter *1 ・ Windows Server 2008 R2 Foundation *1 ・ Windows Server 2008 Standard *2 ・ Windows Server 2008 Enterprise *2 ・ Windows Server 2008 Datacenter *2

*1：64bit 版のみ提供されます。

*2：「OS 表記」および「対象 OS」において 32bit 版のみを対象とする場合、名称末尾に” 32bit 版” を追記します。また 64bit 版のみを対象とする場合、名称末尾に” 64bit 版” を追記します。

*3：ハードウェア毎の適用 VMware Ver はシステム装置のサポート OS に準じます。

2

環境設定

この章では VMware をインストールしたシステム装置で SEL Manager を使用する場合の設定について説明します。

BMCの環境設定

□ RS440 モデルの場合

1. ネットワークの設定

BMCのLANインタフェースのポートには、システム装置のネットワークインタフェースコネクタ1（以下、オンボードLAN1）を使用します。BMC LANのポート（オンボードLAN1）と、本ツールをインストールするVMwareゲストOS上のLANインタフェースのポートをLANケーブルで接続する必要があります。その際、VMwareゲストOS上のLANインタフェースはオンボードLAN1以外に設定ください。

ネットワーク設定について、SEL ManagerをインストールするゲストOSから、オンボードLAN1以外のポートを経由して、BMC LANのオンボードLAN1へアクセスできるように、ゲストOSのネットワーク設定、およびBMC LANのネットワーク設定をする必要があります。



オンボード LAN1 は通常データ通信用としては使用しないでください。データ通信用として共用した場合、通信異常が発生する場合があります。

BMC LANのネットワーク設定は、BIOSセットアップメニューにて設定可能です。BIOSセットアップメニューの[Server Management]-[BMC LAN Configuration]において、「Baseboard LAN configuration」の設定を実施してください。[Baseboard LAN configuration]の「IP source」の設定値は「Static」に設定し、[IP address]、[Subnet mask]、[Gateway IP]を設定します。[IP address]、[Subnet mask]、[Gateway IP]については、システム装置を接続しているLAN環境に合った設定を行ってください。VMware環境の場合はRMMボードは使用できませんので、BIOSセットアップの[Server Management]-[BMC LAN Configuration]の[Intel(R) RMM3 LAN configuration]の設定は不要です。

2. ユーザアカウントの設定

BIOSセットアップメニューの[Server Management]-[BMC LAN configuration]-[User configuration]において、本ツールで使用するユーザアカウントを設定します。

- User ID : 本ツールで使用するIDを1つ選択し、以降の項目を設定（[anonymous]以外を選択してください）
- Privilege : [Administrator]に設定してください。
- User Status : [Enabled]に設定してください。
- User name : User IDが[User3]、[User4]または[User5]の場合は設定してください。User IDが[root]の場合は変更できません。
- User password : 必ず設定してください。（“NULL”（空）は設定できません。）
Passwordを忘れた場合は、再度入力すると再設定されます。

以下に設定例を示します。

```
User ID      : root
Privilege    : Administrator
User Status  : Enabled
User name    : root
User password : password
```

□ RS440 以外のモデルの場合

BMCのマネジメントインタフェースのLANポートと本ツールをインストールするVMwareのゲストOS上のLANインタフェースポートをLANケーブルで接続し、BMC LANのネットワーク設定は、ゲストOSからアクセスできるように設定してください。BMCのネットワーク設定は、工場出荷時に以下に設定されています。ネットワーク設定の変更は、Webコンソールにログインして実施ください。

IPアドレス	: 192.168.100.100
サブネットマスク	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 未設定

各設定値については、システム装置を接続しているLAN環境に合った設定を行ってください。

3

インストール手順

この章では SEL Manager のインストール手順について説明します

SEL Manager のインストール手順

通知

SEL Manager のインストールについて

SEL Manager をインストールしていない環境では、障害の発生を見落として重要なデータを消失したり、障害解析時に支障をきたしたりする場合があります。必ずインストールしてご使用ください。

SEL Manager のアンインストールについて

SEL Manager のアンインストールは実施しないでください。アンインストールした場合には、SEL Manager が取得した、障害解析に必要なデータが消失します。また、SEL Manager をアンインストールした場合には、他の日立製ソフトウェアが正常に動作しなくなる恐れがあります。万一、アンインストールしたことにより、他の日立製ソフトウェアが動作しなくなった場合には、これらの日立製ソフトウェアの再インストールが必要になり、お客様の設定情報や日立製ソフトウェアが取得したデータが消失する恐れがあります。



■SEL Manager プログラムは以下のフォルダにインストールファイルを作成する為、Cドライブがシステムドライブ（OS インストールドライブ）となっている必要があります。

- ・32bit 版 OS の場合 C:\Program Files\Hitachi\SelManager
- ・64bit 版 OS の場合 C:\Program Files(x86)\Hitachi\SelManager

■SEL Manager のインストールを行わないと、障害発生時の解析に支障をきたすおそれがあります。

■Windows 上で SEL Manager プログラムを使用する場合、以下のデバイスをインストールしないでください。

- ・Microsoft 汎用 IPMI 準拠デバイス

SEL Manager プログラムは、上記デバイスと同じハードウェア資源を使用するため、デバイスが動作していると正しく動作しません。

■SEL Manager をインストールしようとする時、既に JP1/ServerConductor/Agent がインストールされている場合は、SEL Manager はインストールしないで下さい。誤ってインストールされた場合は、4 章の手順に従い、SEL Manager のサービスおよびドライバを停止・無効化させてください。



■ JP1/ServerConductor/Agentは、SEL Managerとの共存が不可能なため、SEL Managerのサービスおよびドライバの停止により排他を実施します。
JP1/ServerConductor/Agentのインストール時、既にSEL Managerがインストールされていますと、JP1/ServerConductor/Agentの仕様として、SEL Managerのサービスおよびドライバを停止し、無効化する仕様となっております。

この時、サービスおよびドライバの停止・無効化に失敗した場合、手動でサービスおよびドライバの停止、無効化を行う必要があります。

(「SEL Managerのサービスの停止手順」参照)

- ・サービスの停止失敗の確認

C:\Program Files\Hitachi\ServerConductor\Server Manager\Log
フォルダ内のファイル @Inst@.log に出力された下記 4 つのログのいずれかが失敗を表す (nnnn の所が「0」でない時は失敗を表す) 場合、手動でサービス、ドライバの停止・無効化を行う必要があります。

YYYY/MM/DD hh-mm-ss : Stop Service: SelManager, State=nnnn

YYYY/MM/DD hh-mm-ss : Stop Service: PltfDrv, State=nnnn

YYYY/MM/DD hh-mm-ss : Change Service Config: SelManager, State=nnnn

YYYY/MM/DD hh-mm-ss : Change Service Config: PltfDrv, State=nnnn

■ JP1/ServerConductor/Agent のアンインストール時、既に SEL Manager がインストールされていますと、JP1/ServerConductor/Agent の仕様として、SEL Manager のサービスおよびドライバを自動化し、開始する仕様となっております。この時、サービスおよびドライバを自動化し、開始する処理で失敗した場合、” PltfDrv ドライバ、SelManager サービスの設定変更に失敗しました。PltfDrv ドライバと SelManager サービスを手動で起動してください。” のメッセージを表示し、JP1/ServerConductor/Agent のアンインストールを終了するので、手動でサービス、ドライバの自動化・開始を行う必要があります。

(「SEL Managerのサービスの開始手順」参照)



■ ブレインストールモデルのシステム装置におきましては、既に SEL Manager はインストール済みです。

■ 「Hitachi Server Navigator DVD」媒体を用いて OS をインストールした場合、SEL Manager はあらかじめインストールされます。

■ 適用 OS には 32bit OS,64bit OS がありますが、SEL Manager は 32bit OS,64bit OS 共通です。

□ インストール

1. CD/DVD ドライブに「Hitachi Server Navigator DVD」媒体を入れ、以下のフォルダの中にある Setup.exe を実行します。

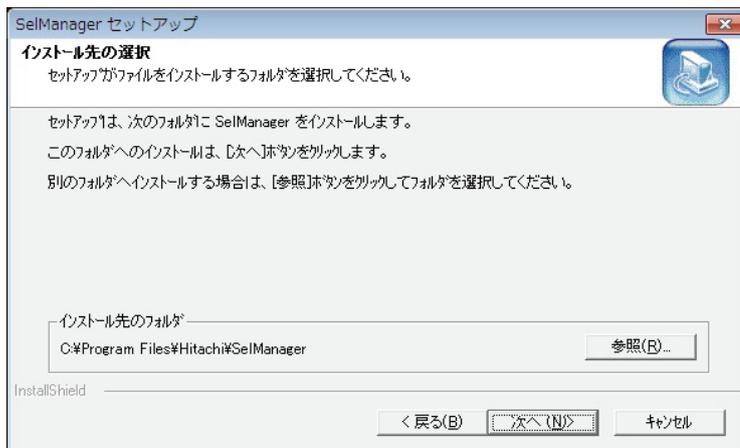
<Windows Server 2008 / Windows Server 2008R2 / Windows Server 2012 共通>

¥WinSrv2008¥Utility¥SelManager¥SelManager

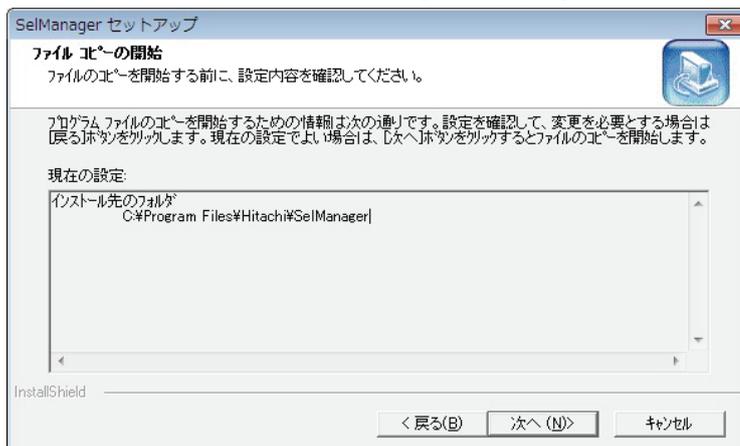
2. 以下の画面が表示されますので、[次へ (N)>]をクリックします。



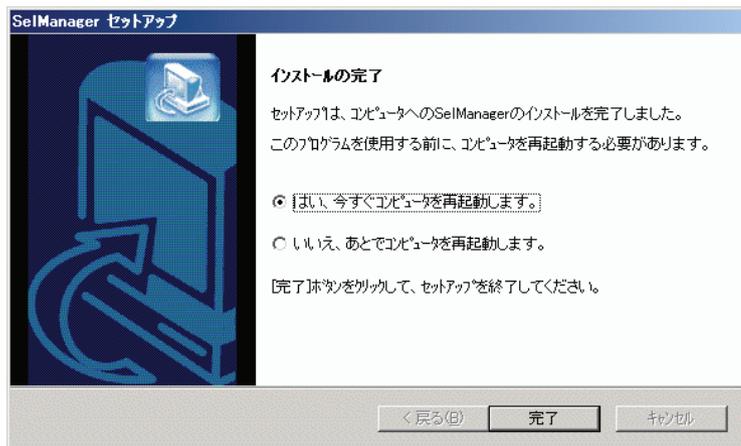
3. 以下の画面が表示されますので、[次へ (N)>]をクリックします。インストール先のフォルダは変更しないでください。



4. 以下の画面が表示されますので、[次へ (N)>]をクリックします。



5. インストールを完了すると以下の画面が表示されますので、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックを行い、[完了]をクリックします。

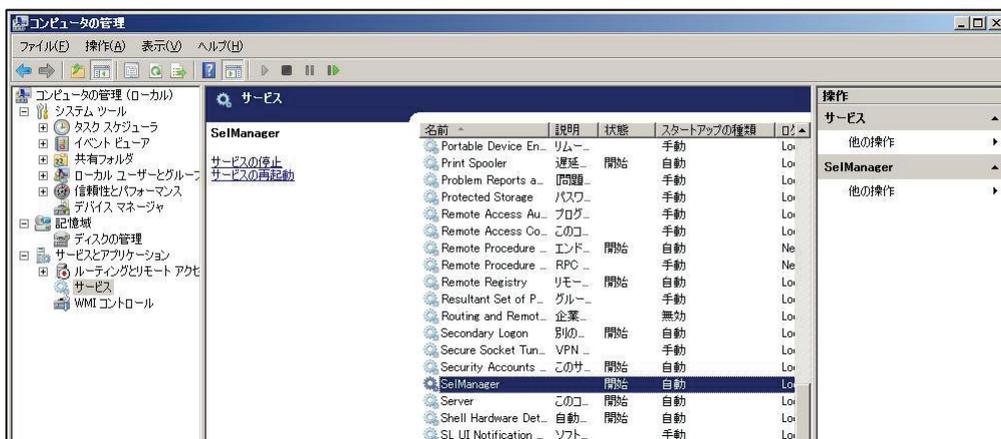


6. コンピュータの再起動完了後、「SelManager」サービスが追加されます。

<Windows Server 2008 / Windows Server 2008R2 の場合>

[スタート]—[管理ツール]—[サービス]または、[スタート]—[管理ツール]—[コンピュータの管理]—[サービスとアプリケーション]—[サービス]を選択し、「SelManager」サービスが追加されていることをご確認下さい。

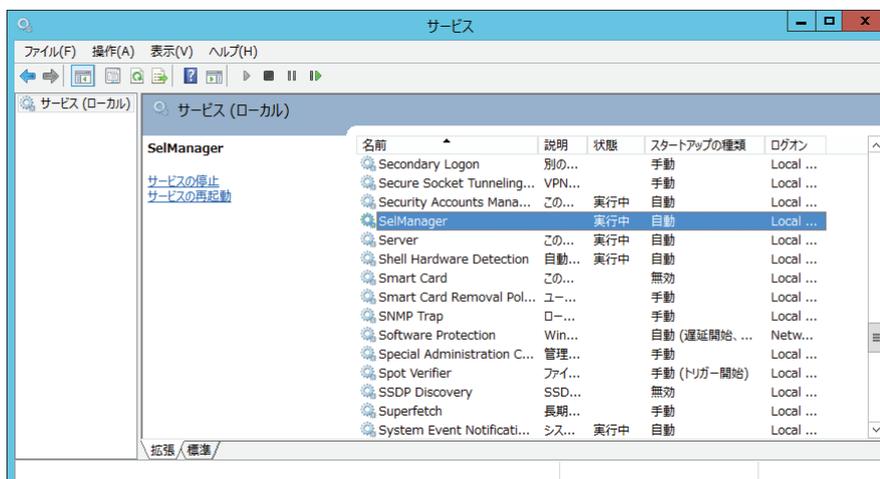
(状態：開始,スタートアップの種類：自動)



<Windows Server 2012 の場合>

サーバーマネージャーを起動し、[ツール]—[サービス]を選択し、「SelManager」サービスが追加されていることをご確認下さい。

(状態：実行中,スタートアップの種類：自動)



7. SEL Manager プログラムは以下のフォルダにインストールファイルを作成します。
- ・ 32bit 版 OS の場合 C:\Program Files\Hitachi\SelManager
 - ・ 64bit 版 OS の場合 C:\Program Files(x86)\Hitachi\SelManager
- また、上記格納先には、本プログラムで使用する 10 個のファイルが生成されます。



ファイルの編集、移動、削除は行わないで下さい。
SEL Manager プログラムが正しく動作しなくなる場合があります。

表 2-1 インストールファイル一覧

項番	インストールファイル	内容	格納フォルダ
1	SelManager.exe	本プログラム	C:\Program Files\Hitachi
2	editconf.exe	設定入力プログラム	\SelManager
3	ipmitl.exe	IPMI アクセスツール	または
4	pwconv.exe	解析プログラム	C:\Program Files(x86)\Hitachi
5	SelManager.conf	設定ファイル	\SelManager
6	SelManager.inf	作業ファイル	
7	SelManager.log	エラーログファイル	
8	lpmi_sel.log	SEL 情報ファイル	
9	BMCLAN.dll	LAN アクセスライブラリ	
10	version	Version 情報 ※1	

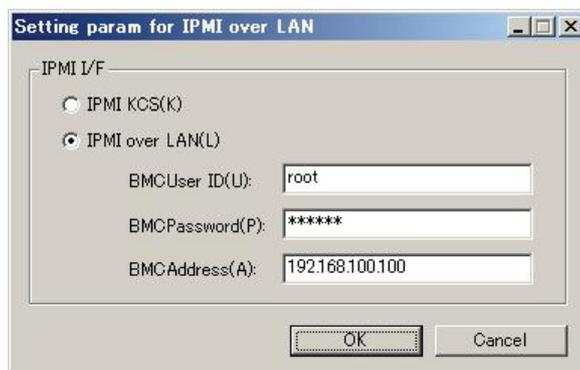
※1 SelManager インストールツールの version 情報

8. VMware のゲスト OS 上で SEL Manager を使用する場合、次の設定作業を実施します。VMware 以外の環境では以下の作業は不要です。

SEL Manager がインストールされたフォルダにある「editconf.exe」を実行します。以下の画面が表示されましたら「IPMI over LAN(L)」を選択し、2 章で設定した内容を入力します。

入力後、[OK]をクリックします（SEL Manager のサービスが自動的に再起動されます）。

- ・ RS440 モデルの場合、2 章で設定した Baseboard LAN configuration の, User name, User password, IP address を、「BMC User ID(U)」、「BMC Password(P)」、「BMC Address(A)」に入力してください。
- ・ RS440 以外のモデルの場合、2 章で設定した BMC LAN の IP アドレスを「BMC Address(A)」に入力してください。「BMC User ID(U)」、「BMC Password(P)」の入力は不要です。



4

サービスの停止・開始

この章では SEL Manager のサービス停止・開始を手動で行う手順について説明いたします。

SEL Managerのサービス停止・開始手順

□ SEL Managerのサービス停止手順

停止の順番は（手順1）サービスの停止・無効化、（手順2）ドライバの停止・無効化となります。

<Windows Server 2008 / Windows Server 2008R2 の場合>

（手順1）サービスの停止・無効化

- (1) [スタート]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理] を選択します。
- (2) コンピュータの管理画面にて[サービスとアプリケーション]ー[サービス] ツリーを選択します。
- (3) 「SelManager」を選択し、[操作]ー[プロパティ]メニューを選択します。
- (4) SelManagerのプロパティ画面の[全般]タブで[サービスの状態]が[停止]でない場合、[停止]ボタンを押します。
- (5) [全般]タブで[スタートアップの種類]が[無効]でない場合、[無効]を選択し[OK]ボタンを押します。
- (6) Windowsを再起動します。

（手順2）ドライバの停止・無効化

- (1) [スタート]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理]を選択します。
- (2) コンピュータの管理画面にて[システムツール]ー[デバイス マネージャ]ツリーを選択します。
- (3) [表示]ー[非表示のデバイスの表示]メニューを選択します。
- (4) [プラグアンドプレイではないドライバ]ー[PltfDrv]を選択し、[操作]ー[プロパティ]メニューを選択します。
- (5) PltfDrvのプロパティ画面にて[ドライバ]タブで[現在の状態]が[停止]でない場合、[停止]ボタンを押します。
- (6) [ドライバ]タブで[スタートアップ]が[無効]でない場合、[無効]を選択し[OK]ボタンを押します。
- (7) Windowsを再起動します。

<Windows Server 2012 の場合>

（手順1）サービスの停止・無効化

- (1) スタートメニューの[管理ツール]ー[サービス]を選択します。
- (2) 「SelManager」を選択し、[操作]ー[プロパティ]メニューを選択します。
- (3) SelManagerのプロパティ画面の[全般]タブで[サービスの状態]が[停止]でない場合、[停止]ボタンを押します。
- (4) [全般]タブで[スタートアップの種類]が[無効]でない場合、[無効]を選択し[OK]ボタンを押します。
- (5) Windowsを再起動します。

（手順2）ドライバの停止・無効化

- (1) スタートメニューから[すべてのアプリ]ー[コマンドプロンプト]を起動します。
- (2) コマンドプロンプト上で次のコマンドを実行し、ドライバを停止します


```
>net stop PltfDrv
      >sc config PltfDrv start= disabled
```
- (3) Windowsを再起動します。

□ SEL Managerのサービス開始手順

開始の順番は（手順1）ドライバの自動起動化・開始、（手順2）サービスの自動起動化・開始となります。

<Windows Server 2008 / Windows Server 2008R2 の場合>

（手順1）ドライバの自動起動化・開始

- (1) [スタート]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理]を選択します。
- (2) コンピュータの管理画面にて[システムツール]ー[デバイス マネージャ]ツリーを選択します。
- (3) [表示]ー[非表示のデバイスの表示]メニューを選択します。
- (4) [プラグアンドプレイではないドライバ]ー[Pltfdrv]を選択し、[操作]ー[プロパティ]メニューを選択します。
- (5) Pltfdrvのプロパティ画面にて[ドライバ]タブで[スタートアップ]が[システム]でない場合、[システム]を選択し[OK]ボタンを押します。
- (6) 再度Pltfdrvのプロパティ画面を開き、[ドライバ]タブで[現在の状態]が[開始]でない場合、[開始]ボタンを押します。
- (7) [OK]ボタンを押します。

（手順2）サービスの自動起動化・開始

- (1) [スタート]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理] を選択します。
- (2) コンピュータの管理画面にて[サービスとアプリケーション]ー[サービス]ツリーを選択します。
- (3) 「SelManager」を選択し、[操作]ー[プロパティ]メニューを選択します。
- (4) SelManagerのプロパティ画面の[全般]タブで[スタートアップの種類]が[自動]でない場合、[自動]を選択し[適用]ボタンを押します。
- (5) [全般]タブで[サービスの状態]が[開始]でない場合、[開始]ボタンを押します。
- (6) [OK]ボタンを押します。

<Windows Server 2012 の場合>

（手順1）ドライバの自動起動化・開始

- (1) スタートメニューから[すべてのアプリ]ー[コマンドプロンプト]を起動します。
- (2) コマンドプロンプト上で次のコマンドを実行し、ドライバを開始します。
>sc config Pltfdrv start= system
>net start Pltfdrv

（手順2）サービスの自動起動化・開始

- (1) スタートメニューの[管理ツール]ー[サービス]を選択します。
- (2) 「SelManager」を選択し、[操作]ー[プロパティ]メニューを選択します。
- (3) SelManagerのプロパティ画面の[全般]タブで[スタートアップの種類]が[自動]でない場合、[自動]を選択し[適用]ボタンを押します。
- (4) [全般]タブで[サービスの状態]が[開始]でない場合、[開始]ボタンを押します。
- (5) [OK]ボタンを押します。

Windows 用 SEL Manager

取扱説明書

第 22 版 2012 年 11 月

無断転載を禁止します。

 **株式会社 日立製作所**
ITプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下 1 番地

<http://www.hitachi.co.jp>